

# PIE

## KANAGAWA LIFESAVING FEDERATION

Protecting marine safety and a valuable life is kept. It is our mission.  
And many people can know and it is being wished it participates



### 神奈川県ライフセービング連盟に加盟のクラブ

- 横浜海の公園サーフライフセービングクラブ
- 三浦海岸サーフライフセービングクラブ
- 葉山ライフセービングクラブ
- 逗子ライフセービングクラブ
- 鎌倉サーフライフセービングクラブ
- 西浜サーフライフセービングクラブ
- 辻堂ライフセービングクラブ
- 茅ヶ崎ライフセービングクラブ
- 湘南ひらつかライフセービングクラブ
- 大磯ライフセービングクラブ
- 二宮ライフセービングクラブ
- 湯河原ライフセービングクラブ
- サーフ90ライフセービングクラブ
- 玉川ライフセービングクラブ
- 専修大学ライフセービングクラブ
- 文教大学ライフセービングクラブ
- 東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ

# R01



Vol.06

神奈川県ライフセービング連盟 会報誌ピアワン 通巻6号発行

- 神奈川県ライフセービング室内選手権レポート
- 2005 International Surf Challenge
- Jr. ライフ「ウォーターワイズ」って何だ？
- 新コラム「前乗りおじさん・潮の香り」連載開始
- 湘南ひらつかLSC紹介
- 賛助会員募集のご案内

## 2005 International Surf Challenge

オーストラリア ゴールドコースト カラワビーチ3月22日～23日

日本・アメリカ・イギリス・ニュージーランドのナショナルチームが招聘され、ホスト国オーストラリアを加え5カ国対抗という形で、2日間に渡り大変ハードなレースが展開されました。サーフ競技をメインとして戦えるチームとして招聘枠に加えていただけただけは、日本のライフセービング競技力向上の推移を考える時、たいへん意味のある動きであったと思います。12名の選手(男子6名・女子6名)により、1日22種目の競技を2日間繰り返し、総合得点を競うという大変ハードなレース構成です。遠藤大哉監督率いる我がナショナルチームは、向こう10年間の競技力向上を視野に置き、若手のチーム編成でこの大会に臨みました。県内クラブからも4名の選手が選ばれました。

つづきは2ページ目の下段をお読み下さい。

## 神奈川県ライフセービング室内選手権大会

第2回目となる今回は、会場を国際公認規格である相模原市立総合水泳場(さがみはらグリーンプール)に移して開催できたこともあり、日本ライフセービング協会(JLFA)公認の室内競技大会として盛大に実施することになりました。多くの認定審判員・スタッフの参加協力や、日本水泳連盟神奈川県連の運営協力、また笹川スポーツ財団の助成が得られたことで、無事に公認大会を成立させることができました。この大会で出された記録は日本記録などに公認されることが可能となっています。大会当日朝の暴風による交通機関の乱れにより、競技を遅らせてのスタートとなりましたが、全レースをタイムレースとすることで円滑に大会がすすめられました。また、出場選手も380名と第1回より2倍以上に増え、会場は熱気に包まれて大きな盛り上がりを見せていました。競技では男子のレースで日本新記録が2つ生まれました。

つづきは2ページ目の上段をお読み下さい。

# The 21st Kanagawa Still Water Lifesaving Championship



## 神奈川県ライフセービング 室内選手権大会レポート

### 第2回神奈川県ライフセービング 室内選手権大会

開催日時 平成16年12月5日(日)  
開催場所 相模原市立さがみはらグリーンプール  
主催 NPO法人神奈川県ライフセービング連盟  
日本ライフセービング協会神奈川県支部  
後援 神奈川県・神奈川県教育委員会・相模原市  
相模原市教育委員会・笹川スポーツ財団S  
SFスポーツエイド事業・ハワイ州ライフ  
ガード協会・神奈川県水泳連盟・NPO法人  
日本ライフセービング協会  
協賛 キリンMCダノンウォーターズ株式会社  
株式会社ゴールドウイン  
レールダル メディカル ジャパン株式会社  
GUARD  
協力 相模原市水泳協会

表紙からのつづきです。  
100mマネキンキャリアーウィズフィンの中村公彦選手が出した59秒86。そして200mスーパーライフセーバーの中島洋岳選手が出した2分37秒13。ともに早稲田大学ライフセービングクラブからの出場選手。素晴らしい優勝でした。  
ライフセービング活動に親しんでもらう一環として実施しているジュニア種目の50m障害物スイム。ライフセーバーに伴泳された小・中学生たちは、いつものように泳げる子もいれば、初めての大会会場であまり力を発揮できない子もいましたが、頑張っていました。  
今後はオフシーズンにおけるライフセーバーのトレーニングの目標となることまた、JLA主催の全日本室内選手権に次ぐ大会として室内ライフセービング競技の機会を増やすことでこの大会がライフセーバーの体力・救助技術向上のために役に立てばと思っております。

写真提供：月刊スイミングライフ(撮影：Checkmate)



## Kanagawa still Water lifesaving championship RESULT REPORT

200m障害物スイム				
1	稲垣 裕美	大竹	2'37"57	
2	京谷 真有	玉川大学	2'40"52	
3	岡村 美沙枝	国士館	2'42"54	

50mマネキンキャリアー				
1	大田 奈々	日体大	45"70	
2	勝俣 閑	日体大	46"11	
3	平 裕子	辻堂	46"62	

100mマネキンキャリアーウィズフィン				
1	澤柳 真衣子	日体大	1'20"34	
2	山口 綾香	早稲田	1'20"96	
3	新山 真以	西浜	1'21"18	

200mスーパーライフセーバー				
1	青木 麻佑美	日体大	3'11"62	👑
2	中曽根 麻世	専修	3'15"31	
3	斉藤 有香	日女体育	3'19"80	

200m障害物スイム				
1	青野 武士	国際武道	2'09"31	👑
2	中島 洋岳	早稲田	2'10"02	👑
3	鈴木 一也	茅ヶ崎	2'10"46	👑

50mマネキンキャリアー				
1	中島 章	日体大	35"51	👑
2	津野 竜馬	鶴川	38"19	👑
3	青木 克浩	柏崎	38"36	👑

100mマネキンキャリアーウィズフィン				
1	中村 公彦	早稲田	59"86	👑
2	中島 章	日体大	1'03"13	👑
3	小泉 太郎	西浜	1'03"79	👑

200mスーパーライフセーバー				
1	中島 洋岳	早稲田	2'37"13	👑
2	長竹 康介	日体大	2'45"97	👑
3	落合 慶二	法政大学	2'50"02	👑

4x50m障害物リレー				
1	日体大E	2'12"60	👑	
2	早稲田	2'16"17		
3	日体大F	2'22"54		

4x50mメドレーリレー				
1	大竹	2'07"72	👑	
2	早稲田	2'07"85		
3	日体大F	2'10"83		

4x50m障害物リレー				
1	早稲田A	1'54"70	👑	
2	日本大学S L S C A	1'54"78	👑	
3	茅ヶ崎A	1'55"54	👑	

4x50mメドレーリレー				
1	日体大B	1'44"72	👑	
2	早稲田A	1'46"37		
3	茅ヶ崎A	1'46"59		

※金色のカップは日本新記録、銀色のカップは大会新記録です。 オープン、ジュニア種目の結果は、神奈川県ライフセービング連盟のホームページをご参照下さい。

## WORLD REPORT 2005 International Surf Challenge

この大会には、国内の各競技大会でオフィシャルのリーダーとして活躍されている塚本隆之氏も大会オフィシャルの一員として参加しました。オーストラリア・ニュージーランドからのオフィシャル選手と共に、たいへん暖かく迎え入れられ、大会2日目のオープニングでは、英語での

「厳しい！」それでもポイント追いつける！  
オアシャンでの競技は、やはりオーストラリア・ニュージーランドにはかなりの差をつけられていましたが、種目によってアメリカ・イギリスとは抜かす抜かれつつのシーンが随所に見られ、今後に期待を寄せることができそうです。  
個人種目においては、全体的になかなか「厳しい！」の感が否めませんが、団体種目のタッグリレーでは2日目に女子3位、男子4位という健闘ぶり。チームワークの成果を見せてくれました。ビーチでは1日目のミックスビーチリレーで2位、女子ビーチフラッグスでの両日3位が日本チームとしての最高位。ゴールドコーストの白くてやわらかい砂は、なかなか厳しいものでした。

思いがけないビッグサーフや荷物遅れにめげず  
表紙からのつづきです。  
今回は、オフィシャルボランティアスタッフとして茅ヶ崎LSCの西嶋智美さん、和田浦LSCの草柳尚志さんに加わっていただきました。西嶋さんには通訳のサポートを、草柳さんにはチーム全体の行動のサポートをお願いしました。そしてトレーニングのためにオーストラリアに滞在していた日大・東海大・湘南校舎のメンバーもチームのサポート役をつとめてくれました。また、佐藤文机子コーチによる自身の経験に基づいた現地でのアドバイスは、選手達にはとても参考になったことと思います。  
選手たちはこの大会に先立って同じ会場で開催されていた全豪選手権を観戦または出場していたので、全豪最終日のビッグサーフと、あつという間に北方向に流される強いカレントを目のあたりにし、かなりオーパスになっていたようですが、この大会の本番を迎えた日にはとても良いコンディションとなり、日本チームも全てのレースに全力を尽くしました。しかしながら、サーフスキーについては、航空会社の都合で自分の物を持っていくことができず、現地レンタルのスキーをチームで使い回し、しかも女子の選手たちには足の長さが合わずシートの部分にゴムパットを幾重にも貼り付けてという悪条件下でレースに臨まなければなりませんでした。

ほとんどの選手が初めての国際試合という若手の日本代表チームに多くの課題も残りましたが、同時にこの貴重な経験を今後どう活かすことができるのかという大きな期待も抱きたいと思えます。  
来年2月の世界大会に向けて、今年の国内主要大会での活躍に注目したいと思います。



**相澤 千春プロフィール**  
70年代より、現日本ライフセービング協会(JLA)の前身、湘南指導員協会・日本ライフガード協会での活動を経て、夫君相澤重男氏(県連盟会長)と共にライフセービング活動の組織化に奔走。  
1984年から5年間に渡り展開された豪日交流プログラムに従事。1987年には、ジュニアプログラムをテーマに渡豪。2003年1月より県連盟理事就任。JLA事務局でも国際交流担当として活躍。

大会結果				
順位	国名	1日目	2日目	総合
1	オーストラリア	102	106	208
2	ニュージーランド	91	87	178
3	イギリス	50	51	101
4	アメリカ	48	43	91
5	日本	38	42	80

数字の単位はポイント

- 日本代表選手団
- 監督 遠藤大哉 西浜LSC
- コーチ 相澤千春 JLA国際担当
- コーチ 佐藤文机子 九十九里LSC
- ボランティア 草柳尚志 和田浦LSC 西嶋智美 茅ヶ崎LSC
- オフィシャル 塚本隆之 日体大LSC
- チームキャプテン 長竹康介 日体大LSC
- 女子キャプテン 小室亜希 西浜LSC
- 選手 堀部雄大 東海大湘南校舎LSC 神萩明果 大竹SLSC
- 選手 大澤和正 九十九里LSC 齋藤綾子 東海大湘南校舎LSC
- 選手 青野武士 国際武道大学LSC 鈴木郁蘭 日体大LSC
- 選手 松澤友樹 日体大LSC 中曽根麻世 専修大学LSC
- 選手 青木将展 湯河原LSC 塩澤理香 日体大LSC



これからの勝負の若手日本代表。今後の活躍に期待



## ライフセービング発祥の地をサーフする。

今号から「前乗り野郎の潮の香り」改め「前乗りおじいちゃん・潮の香り」となりました。ちなみに筆者は変わりませぬ。どうぞよろしく。

4月上旬、オーストラリア・シドニー市のNorthme Beachesに住んでいるMr. GUCCI(前県連盟副理事長の山口毅氏)の「自宅」Mr. トヨッチ(現県連盟理事の豊田勝義氏)とともに「回信」になりながら、地元Onnavaなどのサーフポイントを探し回りサーフしてきました。

現地のサーファーが、一日にサーフしても大体1時間くらいなのに対して、我々は最低でも2時間以上、多い日は3ラウンド6時間以上もサーフしまくってきました(笑)。そんなサーフジャッキーな我々3人ではありますが、その合間にシドニーのライフセービング(LSS)事情を視察してきたので簡単に紹介いたします。

## 日本と違う？ライフセービングの文化

どんな小さなビーチに行ってもLSS活動をするための立派なクラブハウスがあり、すでに南半球のシドニーは秋になってしまいましたが、月金曜日の平日はライフガードが、週末はライフセーバーが水辺の安全活動に従事していました。しかし職業であるライフガードを除くとLSS活動のモチベーションは決して高いとは言えず、海を見たい友人と話しこんでいる者や、LSSのテントの中に誰もいない「またテントの中で寝るべって」にいる者さえいました。

ある時、GUCCIが赤×黄色フラッグ間の遊泳区域内のアウトサイドで、良い波が割れるのでサーフしていたら、しばらくは注意されることはありませんでした。が、泳客はゼロ、あまりにもエアインでサーフしていたので、ライフガードはレスキューボードのインアウトのト

レーニングをするかのように、上手にGUCCIを遊泳エリア外に自然に押し出したそう。これはGUCCIは薄く感心してました。とても自然な注意であり、ホイッスルや警告の言葉を使わないスマートなLSS活動ですね。でも遊泳客がない時には、サーフィングはOKだとGUCCIもトヨッチ、MICK(自分です)は思っています。

## モチベーションは「楽しい」こと

GUCCIに言わせれば、シドニーにおいて、競技とレスキューの関係は、どのライフセーバーもほとんど考えていないそうです。コンペティターはほとんど競技の事だけを中心に考えていて、もしもパトロールに出て最低時間で中には出ないものささいと言っています。また一年を通してLSS活動は行われていず、ある程度寒い冬は、他のスポーツに興じる者が殆どだそう。因みにGUCCIの二人の息子は、半年間を地元のLSSクラブでLSSを、もう半年間を地元のサッカークラブに所属してサッカーを楽しんでいます。

私達が訪れた4月はサッカーのシーズン。週2回あるサッカーの練習または試合は、午後3~4時頃からわずか1時間で終了します。その1時間の間でも面白くないければ子供達は、「Baahong!!(つまんない!)」の意味」と言って家に帰ってしまうそうです。

コーチはわずか、時間でも子供達が楽しめるように工夫をする。何より子供達を褒めちぎることで極端な話、コーチや大人から幼い頃から大きくなるまでサッカーを褒めちぎられるので、「自分は将来プロのサッカー選手になっても十分に通用するんだ」と思っている。日本の野球やサッカーそしてLSSは、だらだらと長時間の練習をさせて、子供達の集中力を途切れさせているのでしょうか？

大人にも言えます。また一番大切な、やる気と楽しい気持ちを持っていないのでしょうか？

最後に、シドニーのクナラ、ワタタ行って日本に多大な貢献をされ、現在も続けられている、スチュアート・キヤメロン氏とソリーさんに会いに行ってきました。スチュアート氏は、80年代の新島や西浜を育ててきた。ソリーさんは言わずと知れた湯河原ライフセービングクラブを日本のクラブに育てた功労者です。現在スチュアート氏が、ソリーさんの家の隣に住んでいるのは何と偶然でしょうか。時差がほとんどなく、小室理事長を筆頭に、豪SLSAとは古くから交流が続くJLA。まだ教わることは一杯ありますが、

## 日本から豪州に教えることが来る日

逆には教える日はいつ来るのでしょうか？まずは、海水浴以外のシーズンに、ホイッスルを使わずにララックスしてサーファー、ウィンドサーファーら海浜利用者をガイドするために、赤×黄色のテントを全国の数多くのビーチに設置するところからでしょうね。



オーストラリアでのスナップ。左下写真は、スチュアート氏ソリー氏、山口氏、豊田氏、そして筆者。

### 加藤道夫 プロフィール

横浜海の公園ライフセービングクラブ創始者。日本ライフセービング協会(JLA)インストラクターとして活躍。97年 神奈川県支部設立と同時に理事に就任。01年 県連盟設立と同時に理事に就任。03年4月 県連盟理事長及びJLA理事に就任。株式会社サーフフレンド(波伝説)代表



## 「ウォーターウィズ」を知っていますか？

6年前よりジュニアライフセービングのプログラムの作成に関わりはじめましたが、最初に感じたことは「ライフセービングに固執したプログラムにとどまらず、子ども達を海に集め、安全教育やレスキュー体験をさせるだけで良いのか？そんなジレンマが私の行く手を遮っていました。そんな時に出会ったのがニュージーランドの「ウォーターウィズ」(Waterwise)でした。ウォーターウィズは、1983年に子ども達の水難事故を少なくするために、ニュージーランド文

部省と同ユース協会などの水辺の活動団体が、中心となつて開発した野外活動教室のプログラムです。このプログラムは、オークランド市周辺地域の小中学校において選択科目の一つとして授業に取り組みられるようになり、急増していた子ども水難事故の増加を抑えることに成功しました。ニュージーランド全国にウォーターウィズ授業が広がることもない、事故件数は少しずつながらも減少し始めた。また、子どもたちが水辺の環境保護や環境問題にも関心を持つようになり、オークランド市は美しい海岸線を保つようになり、ウォーターウィズに加えて、ウォーターウィズは諸外国でも高い評価を受けているようになり、近年では米国でも開始されています。

「いつかそのプログラムに参加してみたい」とそんな想いで模索していたところ、飛び込んでくれたのが、「日本版ウォーターウィズの実地報告を取り入れた」「海辺の環境教育フォーラム2004」の出会いでした。ジュニアプログラムに新しい風を吹き込めるかもしれない。そんな思いでフォーラムの門戸を叩きまらした。参加者履歴を聞いてみるとライフセービング界からは初めての参加。海辺の自然体験に関わる人、例えばダイビングインストラクター、水族館関係者、海辺の博物館、海辺のエンジニアズ関係者、漁師さん、ピジターセンター職員、カヤッカーなど、海辺に関わる色々な人が参加していました。

海辺で様々な活動をしている方々と肩を並べ、フェイスカッションできるチャンスは滅多にありません。海辺での活動には安全確保が大前提です。ライフセービングの立場で「海辺活動における安全管理の手法」を全面に出していったら、上手くアプローチができるはず。そのためにポスターセッションへ参加し、ライフセービング教育の必要性を訴える展示をしたところ、多くの方が興味を示してくれました。それを基点に横の繋がりを築けることができた昨年に対して、今年は日本潜水安全協会(JUCE)とのコラボレーションによって持ち込めるようになりました。「スノーレージング体験」がその安全確保の手法と救助機材の活用方法について、そのテーマです。

## 新しいジュニアライフセービングが始まる！

水辺では、柵や禁止事項という規制内に収まらず、規制の範囲外に陥った場合に対応がわからず、事故に遭う、飛び込み行為などの規制のために、子どもたちは経験や学びの機会が、人目の少ない水辺に行き、さらには危険を招くかもしれません。水難事故防止という観点から水辺に触れる方法を規制するのでも大切ですが、それと同時に水辺でライフセービング体験を通して楽しく水と親しみ、水辺における安全知識を身に付けることは安全の相乗効果となります。

ライフセービングの原則は、事故を未然に防ぐ予防活動。ライフセービングを核にした水辺スポーツ体験や相互理解はジュニアプログラムの幅を広げ、より地域色が出せる良い機会になると思います。これらもワークショップ形式にして順次開催していきます。今年度のフォーラム開催場所であった高知県の

国立堂戸少年の家は「日本版ウォーターウィズ」を展開している施設でした。そこでの見聞を持ち帰り、沖縄ライフセービング協会(OLSA)と国立とかけ青年の家との共同開発により、ライフセービング仕様にアレンジしたプログラムを「ジュニアライフセービングジャンボリー」として活用・開催することも決まりました。日本全国のジュニアライフセーバーを世界に誇れる海洋環境が残る沖縄・渡嘉敷島に集めて、様々な海洋アクティビティを体験できる年に一度のお祭りしたい。皆様にもお知らせできる日が近いと思います。子ども達に素晴らしい体験を提供できるよう、沖縄と今後タイアップしていきたいと思っています。御期待下さい。



海辺の環境教育フォーラム2004の様相。学課だけでなく、自然と触れあう学習も多数。

### 座間 吉成プロフィール

横浜海の公園ライフセービングクラブ創設メンバー  
玉川大学体育会水泳部ライフセービング班コーチ  
玉川大学ライフセービングクラブ創設者。



- 1997年 JLA神奈川県支部設立と同時に理事に就任。
- 2000年 沖縄のジュニアライフセービングの普及に尽力。沖縄ライフセービング協会との交流始まる。
- 2001年 県連盟設立と同時に理事に就任。
- 2004年 JLA教育委員会委員。玉川学園高等部講師。

# K.L.F Information

セミナー情報から新商品情報、LS資格取得までさまざまな情報をお知らせします。

## Report

湘南ひらつかLSC 事務局長 伏黒哲司

### 湘南ひらつかライフセービングクラブ



私たち湘南ひらつかライフセービングクラブは、1992年にその第一歩を踏み出しました。そして2005年、日本ライフセービング協会や神奈川県ライフセービング連盟がたくましい組織へとなるにつれて、私たちのクラブも恥ずかしくないよう日々前進を続けています。

私たちのクラブを紹介する上で、まずビーチパークを説明しなければなりません。1990年に行われたサーフ90というイベントにおいて、『海との共生』をテーマにその一つの会場として、ここ平塚のビーチパークの第一歩が始まりました。そしてイベント終了後、地元団体の要望によってボードウォーク(木の板張り)と『海との共生』という熱いメッセージが残され、1996年に湘南ひらつかビーチセンターが完成しました。また、2002年には海水浴場が復活しました。

私たちの活動拠点である湘南ひらつかビーチパークは、日本でも数少ない通年利用を目的として建てられたコミュニティー施設です。ビーチには1年中シャワー・トイレ・売店が利用できる、ビーチセンターという管理事務所には放送設備、ライフセーバー詰所、倉庫が常設されています。そのほかの特徴としてボードウォークがあります。砂がつかずに散歩できたり、横になって読書もできます。また、ビーチスポーツが盛んで、ビーチバレー、サッカー、ビーチフットボールなどが盛り上がっています。

このビーチにはクラブが存在します。私たちもそのメンバーの一人です。同じ「ビーチ」というフィールドで活動する者同士が、コミュニケーションをとる機会が増え、お互いを理解し助け合いながら様々な活動をしています。パトロール活動に集中できる環境があるのも、ビーチクラブのメンバーのおかげとも言えます。

このような素晴らしい環境の下、私たちクラブ員は夏のビーチコントロール・パトロールだけにとどまらず、春夏秋冬さまざまな姿を見せるビーチを楽しみながら、知識・技術・経験とトレーニングを積んでいます。

当クラブの悩みとしては、素晴らしい環境がそろっているにもかかわらず、メンバーの定着が進まないところです。組織としてもまだまだ確立されていない面もあり、課題も多いです。しかし、毎月の定例活動日を決めクラブ全体として活動する時間を増やすことや、一般の方々にもわかりやすいように、クラブ内の仕組みを整理するなど一歩一歩成長しています。その成果が少しずつではありますが、高校生や社会人からの活動参加者が増えています。

クラブにはいろんな境遇、環境のメンバーがいますが、それぞれ自分のできること、やるべきことを把握し、前向きに取り組んでいます。今後より多くのメンバーが集い、パトロール活動のさらなる充実、ジュニア育成や競技会、ビーチパーティー、ビーチイベントを開催するなど夢や目標は広がるばかりです。

ライフセービングの普及そして湘南ひらつかビーチパークが盛り上がること、事故のないビーチ作りなど、今後もできることからしっかり取り組んでいきたいです。私たち湘南ひらつかライフセービングクラブは、地域の方々またビーチに携わる方々に支えられ、時には厳しく後押ししてもらいながら、今後ともたくましいクラブとなるよう努力していきます。今後ともよろしくお願ひいたします。



### 資格講習会を実施しています。

今年も当連盟主催によるライフセービング資格講習会(JLJA公認)を実施しています。ベーシック、アドバンス(上級)の各資格を中心に、資格更新講習など年間を通して開催し、初めて資格取得をしようとする方々への普及と、継続している方々へのライフセービング活動の促進をしていますので、ぜひ資格講習会にご参加ください。

また、今年から新しく導入されるCPR資格(心肺蘇生中心・エレメンタリー資格の後継)については、日程調整をして実施する予定です。詳しくは当連盟ホームページでご確認ください。



写真は資格更新講習会のCPR講義の様様です。

### 神奈川県ライフセービング連盟講習会一覧

アドバンス・サーフ・ライフセーバー(4日間)

■第1回 5月7日、8日、14日、15日

ベーシック・サーフ・ライフセーバー(5日間)

■第1回 6月11日、12日、17日、18日、19日 ■第2回 6月22日、23日、24日

25日、26日 ■第3回 9月3日、4日、17日、18日、19日

資格更新講習会(半日)

□3月13日 □5月8日 □10月30日



### ワークショップの開催

定員枠を超える41名の参加者を集めて、3月27日(日)午後にはワークショップ「マリフェザーとは」を開催しました(鶴沼海岸にて)。当連盟理事長でもある加藤道夫を講師に迎え、県内のライフセーバーを中心に、多数ご参加をいただきました。

水辺で事故が発生する要因を事前に少しでも摘み取るために、潮の読み方や天気図の見方など、マリンスポーツシーズンを前にして、あらゆるライフセーバーに学んで欲しいテーマを取り上げています。



天気図を描きながら気象を説明する加藤。



### 賛助会員募集のご案内

ライフセービングとは“水辺の事故を未然に防ぐ”社会的活動です。私たち神奈川県ライフセービング連盟は、特定非営利活動法人としてライフセーバーの育成や競技会の開催など、ライフセービング活動の普及を進めています。また、ライフセービング活動を通じて、青少年の育成や水辺の環境保全などの活動にも取り組んでおります。

今後、水辺での安全管理においては、ますますライフセーバーの必要性が高まり、重要な役割を担っていくことでしょう。このライフセービングに関する事業を進めていく上で、これを支援していただける法人、個人の方を賛助会員として募集させていただいております。会員の皆様には当会報誌を拜送や、心肺蘇生法の講習や講演に関するご協力等を致します。

■年会費：法人会員3万円 個人会員3千円

■お申し込み：郵便振替にて

■口座番号：00250-1-32866 加入者名：NPO神奈川県ライフセービング連盟

事前にご連絡をいただければ幸いです。詳しくは連盟事務局までお問合せください。

皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

### 神奈川県ライフセービング連盟総会開催のご報告

本年度の総会を3月27日に藤沢市内にて開催しました。

加盟17クラブのうち15クラブ(うち委任2)と連盟理事の参加により、前年度の事業報告および、本年度の事業計画の議案承認が行なわれました。また総会後の懇親会では、各クラブの現況を話し合いました。

地元地域との関係を深めるためにも、日々の活動をしていることや、夏季監視シーズンの人材確保の難しさへの対応、ジュニア活動を活性化することが課題となっていることなどを意見交換しました。



きもちだって、すっきりしたがる。

今年の猛暑は特に人が多かった。だからと言って水難事故発災が遅れてはならない。

生まれたままのおいしさ。生まれたままの恵み。

www.volvic.co.jp



神奈川県ライフセービング連盟

会報誌ピア01 通巻第6号

発行：KLF事務局

発行日：2005年5月20日

発行人：加藤 道夫

編集：渡邊 祥一郎

特定非営利活動法人

神奈川県ライフセービング連盟

〒251-0046

神奈川県藤沢市辻堂西海岸3-1-1 辻堂海岸ビル2F

電話 0466-34-2243

FAX 0466-34-2257

URL www.lifesaving.ne.jp

Mail info@lifesaving.ne.jp